

Title	異文化マネジメントへの系譜
Sub Title	
Author	岡本, 真吾(Okamoto, Shingo) 大藪, 毅
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2006
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2006年度経営学 第2121号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2121

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	大藪 研究会	学籍番号	80530201	氏名	岡本 真吾
(論文題名)					
異文化マネジメントへの系譜					
(内容の要旨)					
<p>市場のグローバル化が進む一方、反グローバル主義の運動が世界中で進んでいる。そして、多様な国籍を持つ企業の合併等により、その文化の相違から企業内での衝突が起こり、経営を困難にしている。また、新たに海外への市場拡大を図っている企業においても、そうした文化の衝突による弊害という理由から海外進出を踏みとどまっているのが現状である。</p> <p>従来は、組織は均質の方が効率的である、と言われてきた。市場がグローバルになり、消費者の嗜好も多様化した現在は、組織内に異質性 (heterogeneity) を包含する方が、外部の変化や多様性に柔軟に対応できる。例えば、情報伝達にしても、内部に異質な要素があれば、明確な伝達手段の確立が必要となるし、内部に多様な意見があれば、それが一つの方向への暴走をチェックする機能を果たす。組織内に多様性を抱える事は、バランスを保ち健全な行動を維持する事に寄与する。</p> <p>異文化マネジメントとは、多属性がかかわる経営を研究の対象とするものであり、ここで得られた考察は単一の文化に偏る事がないという点から、企業のみならず、社会の多くの主体において幅広い適用が可能である。</p> <p>以上から、異なる価値観を持つ人々を認められるような多角的な視野を持つ人材を育成するためにはどうすればよいか、企業はどのような経営戦略を採用し、どのような組織変遷をたどりうるのかを異文化という視点から考察する。</p>					